

函館工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	社会人基礎力演習 I	
科目基礎情報							
科目番号	0332		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 1		
開設学科	物質環境工学科		対象学年		4		
開設期	前期		週時間数		1		
教科書/教材	必要に応じて適宜配布する。(1年次に使用したファイルは続けて使用する。)						
担当教員	鳴海 雅哉						
到達目標							
1.社会人基礎力を理解することができる。 2.進路志望に必要な書類の書き方を理解することができる。 3.面接の基本スタイルを理解することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		社会人基礎力を理解し、それを体得しようとする。		社会人基礎力を理解することができる。		社会人基礎力を理解することができない。	
評価項目2		進路志望に必要な書類の書き方を理解し、よりよいものを提出しようとする。		進路志望に必要な書類の書き方を理解することができる。		進路志望に必要な書類の書き方を理解することができない。	
評価項目3		面接の基本スタイルを理解し、よりよい面接ができるように練習できる。		面接の基本スタイルを理解することができる。		面接の基本スタイルを理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達目標 (A-2) 学習・教育到達目標 (D-3) 学習・教育到達目標 (E-1) 学習・教育到達目標 (E-2) 函館高専教育目標 A 函館高専教育目標 D 函館高専教育目標 E							
教育方法等							
概要		本講義は、各学年で設定される「コミュニケーション科目」の一つで、みなさんが函館高専の学生として健全に成長することを目標としている。特に4年次では、これまでの内容を踏まえ、実際にインターンシップに参加するみなさんにとって実践的な事項、例えば「履歴書」などの諸書類の作成、社会人としてのマナー、面接作法などの対応支援をしていく。加えて、卒業までに「社会人基礎力」(職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力)を養成していく。					
授業の進め方・方法		グループ討議、発表、教員による講話					
注意点		評価について、英語や数学などの一般教養科目と異なり、「知識を得た」ことを評価の対象としない。ワークショップや発表における姿勢やそのまとめとしてのレポート、および自己実現目標の設定とその自己評価でもって評価とする。前向きに取り組む姿勢であればあるほど、それに報いたいと考える(評価:その他)。すでに述べたとおり、本講義には積極的に参加してもらいたい。従って、授業中に本講義と関係の無い取り組みをしていたり、不要の物を操作していたりした場合は、「意欲無し」と見なし、相応の減点措置となることを覚悟されたい。加えて、そのような姿勢であれば、将来に向けて必ずや失点となるであろうことを指摘しておく。 JABEE教育到達目標評価: 定期試験30%(D-3: 66.7%、E-2: 33.3%)、課題40%(D-3: 50%、E-2: 50%)、発表20%(A-2: 50%、E-1: 50%)、ポートフォリオ10%(D-3: 50%、E-2: 50%)					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス、1年間の自己実現目標の再設定		本講義の概要を理解し、自己実現目標を再設定できる。		
		2週	4年次を迎えて意識するべきこと(専攻科生あるいは5年生による講話)		上級生による講話を適切な姿勢で聞き、内容を十分理解し、自らの役に立てることができる。		
		3週	「履歴書」作成演習		「履歴書」作成の方法と工夫を理解できる。		
		4週	「志望動機書」作成演習		「志望動機書」作成の方法と工夫を理解できる。		
		5週	「自己アピール文」作成演習		「自己アピール文」作成の方法と工夫を理解できる。		
		6週	「敬語」演習		「敬語」の適切な使い方と誤用について理解できる。		
		7週	「礼状」作成演習		「礼状」作成の方法と工夫を理解できる。		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	答案返却・解説、目標の見直しと反省		範囲の適切な理解ができる。 自ら設定した自己実現目標を見直し、適切に自己の生活に対応させることができる。		
		10週	「面接の在り方」ワークショップ①(「面接」とはどのようなものか、どのように対応するべきものなのかを検討する)		ワークショップの目的を適切に理解し、自らのコミュニケーション能力(人間力)を活用あるいは伸ばそうとすることができる。		
		11週	「面接の在り方」ワークショップ②(同上)		ワークショップの目的を適切に理解し、自らのコミュニケーション能力(人間力)を活用あるいは伸ばそうとすることができる。		
		12週	「面接の在り方」ワークショップ③(授業時間内外で検討した結果を発表する)		ワークショップの目的を適切に理解し、自らのコミュニケーション能力(人間力)を活用あるいは伸ばそうとすることができる。		
		13週	「面接の在り方」ワークショップ④(同上)		ワークショップの目的を適切に理解し、自らのコミュニケーション能力(人間力)を活用あるいは伸ばそうとすることができる。		
		14週	「面接の在り方」ワークショップまとめ ※検討結果をレポートにまとめる。		ワークショップの目的を適切に理解し、自らのコミュニケーション能力(人間力)を活用あるいは伸ばそうとすることができる。		

		15週	※前期末試験は実施しない。				
		16週	今年度の自己評価と反省			自ら設定した目標に対し、妥当な自己評価ができる。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	発表	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	40	20	0	10	0	100
基礎的能力	20	20	10	0	10	0	60
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	10	20	10	0	0	0	40